

科目名	学外実習	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	石川 洋		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-2-470003		経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること		
授業の目的・テーマ	<p>学外実習は、大学と企業等とが事前に協議し、大学から派遣された学生が、ある一定期間、企業等において、就業体験を行うものである。</p> <p>この科目では、学生が大学で学んでいることがらが、実社会でどのように役立つのかを、企業等に入って体験し、そこで得た知見や経験をもとに、専攻分野での知識向上、学習意欲の向上を図ることを目的としている。</p> <p>併せて、学生が就職を含め、将来の進路を考える上で貴重な経験と情報を得ることができる。</p> <p>こうしたことを学ぶことによって「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に当たることができる」人物像を目指す。</p>				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録前にガイダンスを行う。 ・受け入れ企業を紹介し、実習先の希望を募る。受け入れ企業は開講年度によって異なる。 ・実習先の担当教員と面接を行い、受け入れの可否を決定する。 ・実習は夏期休暇中に行う。 ・実習終了後、実習報告書を提出する。 				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学んでいることがらが実社会でどのように役立つかを、企業等の職場に入って実体験すること。 ・経営学科の学生は、特に、経営学の幅広い知識や分析力を生かし、実社会でどのように活用できるかを理解すること。 ・情報システム学科の学生は、特に、情報システムの構築方法や企業における情報活用などの実態を理解すること。
実務経験との関連性	民間企業での業務経験に基づき、学外実習先選定のアドバイスを行う。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	業界研究、企業研究を行う。 過去の実習報告書を読む。 これらの作業を2時間以上かけて行うこと。
【復習】時間・内容	実習先での指導に従い、自発的に作業記録をまとめる。 実習終了後、実習内容を報告書にまとめる。 これらの作業を2時間以上かけて行うこと。

成績評価	
評価基準・方法	実習先からの評価票、実習レポート、担当教員との面談、によって総合的に評価する。
フィードバック方法	受け入れ企業の担当教員から、作成した実習報告書の添削指導を受ける。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	
---------	--

受講上の留意点等	<ul style="list-style-type: none">・実習先担当教員との面接は必須である。・学外実習による就業体験は、アルバイトではないので、実習先が提供する研修・就業に参加するという目的意識をしっかりと持って臨むこと。・実習先における態度、成果は、本人はもとより、本学に対する評価につながる場合がある。そのため、学業成績、日常の規律遵守に著しく問題のある学生に対しては実習を許可されない。参加する学生は、本学から派遣されていることを自覚して就業に臨むこと。・各企業の希望者が実習先の受入れ人数を越えた時は、担当教員が選考する（実習できない場合がある）。
JABEE	